



地域子育てネットワークだより

令和元年10月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部男女家庭課 電話：(078)341-7711 内線 2798

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

<https://web.pef.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html>

「ひょうご家庭応援県民大会」を開催します！

入場無料

と き：令和元年11月16日（土）
13：00～15：30
と ころ：兵庫県公館 大会議室



【主な内容】

- 第12回「家族の日」写真コンクール表彰式
- 事例発表
- 講演 立命館大学 産業社会学部教授
筒井 淳也 氏

兵庫県では、家族・家庭の大切さを考え、きずなを深めるとともに、地域で家庭を支える取組を進めるため、「ひょうご家庭応援県民大会」を開催します。

今年度は、立命館大学産業社会学部教授の筒井淳也氏に「家族のこれまでとこれから」をテーマにご講演いただきます。

心がなごむ「家族」の写真も展示して、みなさんのお越しをお待ちしています。

兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課

電 話：(078)362-3385 FAX：(078)362-3891

Eメール：danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

「ひょうご子育て応援の店」パスポート会員募集中！

県では、企業・店舗等が18歳未満の子どもがいる子育て世帯に割引・特典等のサービスを行う「ひょうご子育て応援の店」を実施しています。現在約100,000世帯がパスポート会員として県内約4,800店の協賛店から物販、飲食、その他のサービスを受けていますので、ぜひこの機会にご登録ください。

サービス内容の例

- ・料金の割引（特定日に割引、ポイント加算、景品プレゼント等）
 - ・協賛店が主催する行事への参加（子ども向け行事への参加等）
 - ・子ども連れにやさしい設備の利用（プレイルーム、授乳室、ベビーベッドの利用等）
- ※各企業・店舗等の企画により特典は異なります。

★協賛企業・店舗等の検索・サービス内容確認など詳しくは・・・「ひょうご子育て応援の店」

ホームページ <http://www.hyogo-kosodate.jp/>

【問合せ先】男女家庭課078-362-3385

ひょうご子育て応援の店

検索



応援ネットの 活動紹介

声かけ・見守り活動
などで子育て家庭を
応援する「子育て応援
ネット」の各地の取り
組みを紹介します。

まちの子育てひろば の活動紹介



芦屋市子育て応援団では、地域の関係団体と連携して見守り、声掛け、パトロール等の子育て応援活動をしています。特に力を入れている活動として“赤ちゃん応援ネット事業”があります。手作りのスタイ（よだれかけ）を持って赤ちゃんを訪問しています。スタイ作りの場では、世代の違う人たちの間で子育て相談、アドバイス、様々な情報が飛び交い会話がはずみ、地域の人同士で新たな友達の輪が広がっています。可愛いスタイは届ける人と受け取る人の温かい架け橋です。この事業は中学2年生のトライやるウィークにも繋がっていて、応援団のメンバーとスタイを作り、赤ちゃん訪問をしています。今後この身近にある交流の場がさらに広がることを目指したいと思っています。



芦屋市子育て応援団

団長 半田孝代



加古川市立志方児童館を拠点とし、毎週水曜日（10:30～12:00）に活動しているサークル「どろんこランド」です。

対象は、0～6歳の未就園児のお子さんと保護者の方です。

第二水曜日に志方児童館で工作をしています。また、近隣の公園や子育て支援施設での自由遊び、遠足や工場見学、ハロウィンパーティーやクリスマス会など、サークルのメンバーで活動内容や場所等を計画しています。

現在は、2歳児1名、1歳児4名、0歳児2名が参加しています。年齢も発達も様々ですが、ゆったりとした雰囲気の中で異年齢の子と関わりがもて、家庭とは違った一面が見られることも。

子育ての悩みを話し合ったり、お互いに情報交換ができたり、お母さん同士がおしゃべりすることで気分転換にもなっています。

興味のある方は、サークルの見学も兼ねて気軽に遊びに来て下さい。

どろんこランド 役員代表 釜江愛弓

連載
第142回

「叱る」も、「怒る」も、親子のコミュニケーション



県立こども病院名誉院長 中村 肇



長かった夏休みが終わると、「さっさとしなさい!!」と、毎朝大声で叱っている母親の声が響いてきます。その声だけを聞いていると、「叱る」というよりも、自分のイライラを相手にぶつけるだけの「怒り」のようにも感じられます。

「叱る」と「怒る」の言葉のちがいは、相手のためか、自分のためかで使い分けられています。我が子がいい子になってほしい、子どもによかれとの思いで親は叱っているのですが、いつの間にか怒りに転じています。子どもは自分のしている事の善悪を理解できるようになると、親の「怒り」の程度を測り、親が、本気か、ただのイライラした気持ちか見極めていきます。

日々繰り返される「叱る」、「怒る」は、親子の大切なコミュニケーションです。子ども自身が自らの行為をよくないと思っているときに、タイミングよく、「叱り」、「怒る」と、子は親に愛を感じます。親だからできる「叱り」ですが、最後には、上手に「ほめる」一言も。